九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2021

所　　属：教職保育支援センター

名　　前：小原　孝徳

作成日：2021 年 10 月 20 日

九州ルーテル学院大学　ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：　小原　孝徳
所属：人文学部　教職・保育支援センター

1.　はじめに

九州ルーテル学院大学で教職・保育支援センターに在職して 6 年。本学で熱意を持って教職を目指す学生たちに、これまでの教職経験等を活かして、学校の教育活動にいかせる実践的な力の定着を目指して授業内容や展開の工夫に努めてきた。

また、教職・保育支援センターとして、教員採用選考考査に向けた学生の学びを支援する対策講座を実施し、教職への夢の実現に向けて取り組んでいる。

2．教育の責任

教員養成段階での大学の責任については、中教審答申等で「教員となる際に必要な最低限の基礎的・基盤的な学修」を行う段階であることを認識する必要がある、と示されている。また、「教員養成段階において、教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力を育成する」ことなどが求められている。

そして、これからの教員に求められる資質能力については、「新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)」 などが示されており、その後の答申でも、「実践的指導力の基礎の育成」 の必要性が指摘されている。

そこで、担当する以下の教職課程の授業自体をアクティブ・ラーニングの視点から改善し、授業内容や展開を工夫しながら実施することで「実践的指導力の基礎」を育成する責任を果たすことを目指す。

2.1. 授業科目の担当

2019 年～2021 年度の 3 年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
社会	2019 年～2 年後期	約 40 人	選択・専門教育
社会科教育法 特別活動・総合的な学習の時間の指導法（小）	2019 年～3 年前期 2020 年～2 年後期	約 40 人 約 40 人	教職必修・専門教育 教職必修・専門教育
特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	2020 年～2 年後期	約 30 人	教職必修・専門教育
教育法規	2020 年～3 年前期	約 50 人	教職必修・専門教育
小学校教育実習Ⅰ	2019 年～3 年前期	約 40 人	教職必修・専門教育

公民科教育実習 1	2019 年～3 年後期	約 3 人	教職必修・専門教育
公民科教育実習Ⅱ	2019 年～4 年前期	約 3 人	教職必修・専門教育
教職実践演習（小）	2021 年～4 年後期	約 40 人	教職必修・専門教育

■　主要担当科目

【社会】

地理的資料や歴史的資料から、社会的事象を追究し、教材研究の意味をつかんでいく授業。

【社会科教育法】

小学校教諭に必要な社会科学習指導要領の解説、教材研究と授業構想の作成、模擬授業の実施と検討、ICT 活用等による授業構成力の向上を目指す授業

【特別活動・総合的な学習の時間の指導法】

教諭として必要な特別活動・総合的な学習の時間の学習指導要領の解説、授業構想や単元計画作成、模擬授業等の実施と検討による授業構成力の向上を目指す授業

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

■　非常勤講師

【尚絅大学生活科学部】

「道徳・特別活動の指導」の内「特別活動の指導」を担当

2.2. 教育組織運営

教育実施に際して学内では以下の分掌を受け持つ。

・教職保育支援センター運営委員会（副委員長）

・就職支援委員会（委員）

3．教育の理念

前述したとおり、教職を目指す学生には、養成段階における「実践的指導力の基礎の育成」 の必要性が指摘されている。そこで、担当する教職課程の授業自体をアクティブ・ラーニングの視点から改善し、授業内容や展開を工夫しながら実施することで「実践的指導力の基礎」を育成することを目指す。

3.1. 理念１　教職に必要なコミュニケーション能力の向上

授業の中で、班別協議や全体発表、模擬授業の実施と協議等により、学生自らがコミュニケーションの必要性や協調性を身につけていく授業形態を工夫する。

3.2. 理念２　実践的な指導力の基礎を着実に身につけさせること

授業内容をより実践的な内容とすること。また事前学修課題を、学校の日常的な指導場面や授業構想、模擬授業案作成等を設定することにより、実践的指導力の基礎の育成につなげる。

3.3. 理念３　教員採用選考考査への学修支援の充実

教員採用試験対策講座を自主的に設定し、参考資料提供や面接・模擬授業指導等の充実により、教職を目指す学生の夢の実現を支援する。

４. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

４.1. 教職課程の授業自体をアクティブ・ラーニングの視点から改善

班別協議や全体発表、模擬授業の実施と協議等により、学生自らが主体的に学修していく授業形態を工夫する

４.2.　授業内容や展開を工夫して実践的指導力の基礎を育成する

授業内容をより実践的な内容とすること。また事前学修課題を、学校の日常的な指導場面や授業構想、模擬授業案作成等を設定することにより、実践的指導力の基礎の育成につなげる。

５. 教育改善のための努力

5.1. 改善努力１　授業評価アンケートと授業改善報告書

各授業についての授業評価アンケートの結果から、各授業の改善策について具体的に検討し、改善を図っていく。

５.2. 改善努力２　授業感想からの授業改善

各授業後に学生の感想を提出させ、内容の評価をするとともに、授業改善の資料としていく。

6.　教育の成果・評価

授業毎回の感想の評価とともに、事前学修課題や模擬授業等実施の評価を行いながら、実践的指導力の基礎の育成について評価していく。

また、教員採用試験結果も評価するとともに、対策講座の内容等についても、学生からの意見も踏まえて改善を図っていく。

７.　今後の教育に関する課題と目標

・より実践的指導力の基礎が育成できるよう、授業内容や事前学修課題の改善、ICT 等の活用や教材資料の工夫など、着実な改善を図っていく。

8. 参考資料

（1）担当科目シラバス

（2）授業評価アンケート結果